

# A B r i e f N o t e N o . 2 3 2

発行日：2016年12月26日

## インドへの旅

千葉県八千代市 松尾 昌泰

### (1) はじめに

2016年11月下旬に、インドの北部のデリー、ジャイプール、アグラに出かけた。

インドは、広さでは日本の約9倍、人口では約10倍で、気候は4~5月が暑季、6~10月が雨季、11月~3月が乾季とハッキリ分かれている。

暑季は猛烈に暑く40℃のこともあり、雨季に雨が土砂降りで滝のように降り、床下浸水や道路は川のようになることもしばしばとのこと。これが乾季の11月になれば、雨がほとんど降らず、降っても月に1日でそれも数ミリ程度とのこと。だから観光のベストシーズンと云われている。しかし、乾燥しきっているので、車やバイクが通れば土埃は舞い上がり、道も町も埃っぽくなる。

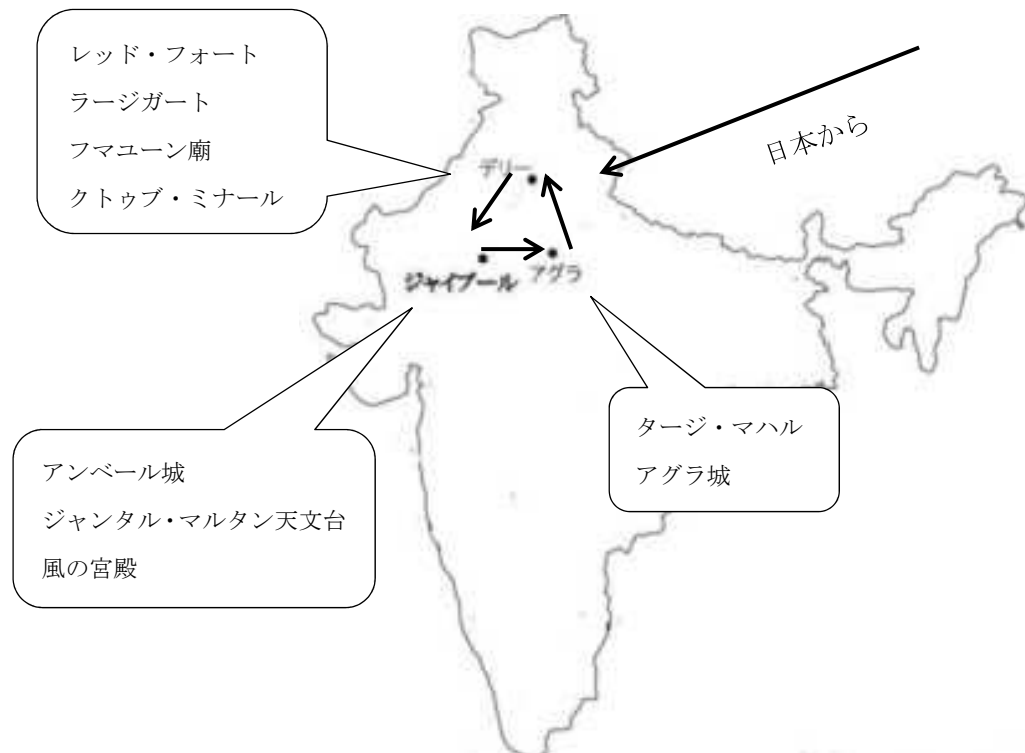
観光名所を別にすれば、インドの感想は、

- ① 埃っぽく綺麗とは言えない、② 道路はルールが有って無しに等しい、③ 牛や犬が道路や街角にたむろしている、④ 町角のどこのATMにも長蛇の列・・・と云ったところ。

### インドの主要3か所の観光 いわゆるトライアングルの旅

観光したところは、インド北部のデリー、ジャイプール、アグラの3都市で、この3都市は日本の観光客に一番人気であり、「ゴールデン・トライアングル」と言っている。

この3か所は地図上では三角形になっており、それぞれが、約200km~250kmあるので、車で4~5時間かかる。



## (2) インドの道路はルールが守られてない

飛行場から宿泊ホテルまでの道路は渋滞しており、いたるところでクラクションを鳴らし、どの車も車線は無視し、少しでも隙間があると、我先に車の頭を突っ込んでくる。バイクも車の間を縫って進み、さらに、オート三輪のようなタクシー（オートリキシャー）がちょこちょこ走る。片方2車線の道路に車が4列にガチャガチャになっている。びっくりだ。これでよくも事故が起こらないものだと感心する。

（注）日本の人力車は人が引っ張るが、インドには自転車で引っ張る「サイクルリキシャー」やオート三輪の「オートリキシャー」がある。（「リキシャー」の語源は日本の「ジンリキシャ」。）

これらはまだまだ！ 中央分離帯がある高速道路で対向車線の側で車が逆走していた。びっくりして声を上げたが、現地ガイドもドライバーも平然としている。

しばらくして、我々の車はトイレ休憩に立ち寄るといふ。中央分離帯が切れている場所で、何と！我々の車が、対向車線に入りUターンするでなく、その端を逆走し始めた。危険だと身を乗り出したが、数百メートル走りトイレ休憩の店に着いた。事故がなくヤレヤレと胸をなでおろした。インドでは逆走は珍しくはないようで、運転する人は逆走車を前提に運転しているらしい。

中央分離帯が切れ目なく何キロも続く道では、左折やUターンが出来る所がほとんどない。行きたい所が対向車線沿いにある場合には、逆走するようだ。

## (3) インドのATMには長蛇の列

インドの銀行や街角のATMにはどこも30人程度が並んでいる。現地ガイドに何故だと聞くと、1日に2000ルピー（約3400円）しか降ろせないという。こんなことに何故なっているか？

丁度2週間程前の2016年11月8日に、インドのモディ首相が、今までの紙幣の1000ルピー札と500ルピー札を同日に即刻廃止し、翌日から新札（2000ルピー札と500ルピー札）に替えると発表した。市民は銀行やATMに殺到しているが、新札の発行が間にあわず、降ろせる金額は2000ルピーに制限しているとのことだった。

これはブラックマネーや横行する課税逃れを根絶するために、税務署にとって把握しやすい仕組みに変えたとのことだった。モディ首相は年内は我慢するように言っているが、市民は勿論のこと、商店も困り切っているようだ。

## (4) 道路や町中の牛など



驚いたことに、道路や町中を牛がゆっくり歩いている。この牛たちは野良牛ではなく飼い牛で、放し飼いにして草を食べさせているようだ。夜には迷うことなく自分の牛舎に戻ると云う。

日本の牛のような鼻輪ではなく、ほとんどは首輪であるが、それさえ付けてない牛もあり、田舎に行くと「野良牛」も見かけた。

インド人では聖なる牛を食べることも殺すこともタブーであるが、道や町中を自由に歩き回るので、弊害にもなっているようだ。

道路脇の雑草だけではなく植木の葉なども牛に食べられる。沿道の街路樹なども被害にあうよう  
で、上の写真の様に牛除け柵が取り付けられていた。

道路や街角では、牛だけではなく犬も多い。首輪をつけていない野良犬が、地面に寝そべったり、  
ゆっくり歩いたり、また、吠えたりせず、人を恐れないが近寄っても来ない。人も近寄らず、威嚇  
せず無関心でいる。犬がいるのも牛がいるのも自然で、人と共存している感じである。

しかし、狂犬病の犬はいないのだろうかと心配になる。

後で聞いたことであるが、狂犬病で亡くなる人は、インドはダントツに多く、続いて多いのは、  
中国、パキスタン、バングラディッシュ、ミャンマーなどのインド周辺国だそうだ。

## (5) 世界遺産などを写真で紹介



(5-2) クトubb・ミナール (デリー)



### (5-1) フマユーン廟 (デリー)

第二代皇帝フマユーンの妃が  
亡き夫の為に 1565 年に建立。

周囲の庭園は綺麗に手入れが  
され、ドームを中心に、建物は  
左右対称となっていた。

白と赤のコントラストは「白  
大理石」と「赤砂岩」によるも  
ので、四方のどこからも同じ形  
に見える。

インド最大の塔 (ミナレツ  
ト) 。

奴隸王朝 (1206~1290 年)  
がヒンドゥー教徒との戦いの  
勝利を記念して建てた、高さ  
72.5m の五層の塔で、外壁には  
コーランの文句を図案化した  
彫刻が刻まれているそうだ。

塔の北側には、これよりも高  
い塔を建てようとして挫折し  
た「アラーイーの塔」の基部が  
残っていた。完成していたら  
100m を超えていたと云われて  
いる。

### (5-3) 巨大な天文台ジャンタル・マンタル (ジャイプール)



18世紀(江戸時代の中頃)に5か所の天体観測施設を造っているが、このジャイプールの天文台が最大規模で約20もの天体観測器が設置。太陽や月の運行を計測する観測器が並んでいる。

写真は時間を測る日時計(高さ27m)。お椀状の建造物には目盛りが付けられており、太陽の影の位置を読み取ると、(その日の時差を勘案すれば)何時何分何秒まで分かる。

素晴らしいことは、①非常に精密かつ巨大な天文技術、そして②今の時代まで残されていること、である。

### (5-4) タージ・マハル (アグラ)



世界一美しい墓と言われている。

タージ・マハルはムガル朝第5代皇帝シャー・ジャハーンによって1654年に建てられた。

「白亜の宮殿」と称されることがあるが、宮殿ではなく、彼の愛妻ムムターズ・マハルの「お墓」とのこと。

### (5-5) 都市の街並み

世界遺産ではないが、インドの街並みの様子を2枚の写真で紹介します。

#### ① デリーの街並み

道には人や自転車や車などが入り交ざって往来している。インドらしい町並みである。



② ジャイプールの街並み



上から見ると綺麗な街並み。しかし、道路の両端の歩道側が白っぽいのは乾いた土の粉で、車が通ると土埃になる。

以上